

パレスチナYWCA

活動報告2009

PALESTINE فلسطين

Y.W.C.A.

YWCA of Palestine

YWCA



Annual Report
2009

日本語版発行 日本 YWCA

もくじ

会長からのメッセージ	…3
総幹事からのメッセージ	…3
1. 2009 年のハイライト	…5
1.1 パレスチナへの旅、現状の目撃～正義に満ち揺るがない平和を皆の手で創り上げる～ (The Witness Visit to Palestine)	…5
1.2 研究:「軍の占領、トラウマ、暴力を排除する」 (パレスチナ YWCA 委託、ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士)	…7
2. 育成と開発プログラム	…8
A. 女性のための経済開発	…8
A.1 職業訓練センター	… 8
A.2 生産プロジェクト	…10
B. 女性の人権とジェンダー平等の促進	… 14
C. 若者のリーダーシップ養成と社会参画	…15
D. 子どもの教育と認知教育	… 16
E. アドボカシーと広報	…19
E.1 JAI(パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA の協働グループ): 次の段階へ	…19
E.2 パレスチナのクリスチャンによる「カイロス文書」	…20
3. 2009 年会計報告	…22
4. 協力団体・寄付団体	…23
5. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長・総幹事	…23

会長からのメッセージ



この報告書は、私たちの主要な活動や達成したことのほか、今後の課題を明かにするものです。パレスチナ YWCA の主な活動の 1 つは組織計画 2010-2015 の最終調整をおこなうことでした。その過程で、約 2 年間にわたり専門的なワークショップや会議を開催し、職員や運営委員、総会の参加者、そして専門家が参加しました。この組織計画は、私たちがパレスチナ YWCA としてのアイデンティティを維持しながら、限りある機会を目的の実現のためにどのように活かせるかという、大きな課題を提起しています。

パレスチナ YWCA では、私たちが望むものと実際手にできたものが別のものであり、場合によっては、それらが正反対のものであることを長年にわたり自覚してきました。政治情勢は私たちがナショナル YWCA として真の希望を実現する上で依然として最大の障害となっています。引き続き大きな問題は、ナショナル YWCA とその運営を担うメンバーおよび地域 YWCA 間での連絡の難しさです。それには、このような小さな地域において、私たちがイスラエルの占領により強制的に分断されていることが挙げられます。この分断は今や、私たちがどのように活動を継続するか、ナショナル YWCA として、どのような存在意義を持つべきかを考える上での法的拘束力となっています。私たちは、自分たちが所有しているものを失うことや、とりわけエルサエムにおいて存続するためにどのように活動していくかについて絶えず不安を抱えています。イスラエルによる、エルサエムにおける攻撃的な手段は、私たちの安心を脅かし、まとまりを維持するための方向性を見失わせます。一つ一つの措置や発言が、私たちの存在を脅かす深刻な影響をもたらす可能性があるのです。

あらゆる障害や困難の中にあって、絶えずパレスチナ YWCA の存続を図るだけでなく、団体を発展させ、活躍することは決してたやすいことではありませんでした。私たちの強みは、正に私たちのあり方と団体としての志にあります。私たちは自分たちの強みを認識し、また弱みにも気付いています。そして私たちは、強みから力を得て弱みを克服しているのです。もちろん、この過程において私たちは孤独ではありません。協力団体や一人ひとりの友情とご支援により、私たちは可能な限り最善の方法で、コミュニティのために働き続けることができるのです。

私たちは、任務を果たすために絶えまぬ努力をし、今年度の多くの目標達成を可能にしたリーダーとすべての職員に対して心からの感謝の意を表したいと思います。また、すべての運営委員の方々の知恵とご支援に対して深くお礼申し上げます。

アブラ・ナシール、パレスチナ YWCA 会長

総幹事からのメッセージ



2009 年度も素晴らしい学びの機会を与えられました。今年度も例年のように、多くのエネルギーを注ぎ、新しい方法を用いて新しいプログラムのアイデアを探ることから始めました。私たちは多くのことを達成し、あらゆる課題にも負けず、プログラムや活動範囲、多様性と資金の両方での拡大を実現しました。このことに対して、私はすべての職員に個人的な感謝を表したいと思います。すべての職員が、厳格な期限を守り、完全な水準を維持するために多くのプレッシャーの下で働きました。こうして新しい年度報告書を誇りと達成感をもって

発行することが可能となりました。

2009 年度、私たちは新しい組織計画 2010-2015 を発表しました。この文書の真の価値は、プログラム構築と制度構築の両方において真の参考文書となったことにあります。一方において、この文書はプログラムのさらなる発展の骨組みとなっています。文書にはテーマ別に各分野のプログラム紹介が詳しく説明されており、資金調達の根拠として役立てられています。組織計画 2010-2015 の作成以来、すべての協力団体と寄付者に対し、私たちはこの文書を指針として用いてきました。他方においては、この文書が運営委員や常務理事、地域 YWCA 内での参考文書となっており、プログラム紹介や計画の策定、組織構造についての項目が特に役立てられています。組織構造に関しては、各部門の役割と責任をはじめ、他部門との関係などについて詳細を説明しています。

今後 5 年間でパレスチナ YWCA は、テーマ別に主要 4 分野にプログラムをまとめることを決定しました。能力向上に関しては分野横断的な問題であり、上記の組織計画の実行が求められます。このように能力向上のための活動は、組織運営と意思決定をするボランティア(ナショナルおよび地域の運営委員)と、職員の両方を対象としています。

この組織計画はまた、アドボカシーが伴わずサービスを提供するだけでは不十分であること、そして、女性による女性のための実現可能な改革についてはこれからも限界があり、持続可能性にも限界があることを明らかにしています。さらに YWCA は、女性が自らの権利に気づくよう啓発し、女性がこれらの権利を表明できるようエンパワーし、女性が権利を手にするため支援しなくては、女性の地位は十分に改善しないと認識しています。

この、女性の権利に基づくアプローチから、私たちは自分たちの組織内の能力を強化する必要性と、この計画やアプローチの理解を深める必要性が見えてきました。そして、Y グローバル(Y-Global)によって与えられ、世界 YWCA によって支援された機会を利用し、スリランカ YWCA やスーダン YWCA などの世界中の YWCA と協力して新しいプロジェクトを実施することになりました。その目的は紛争地域の女性のために安全な場所を作り、国連や他の国際的なネットワークの中で女性の権利に関するアドボカシーを強固なものにしていくことです。

このことは私たちが女性の国際的なネットワークの一員として、他の女性と同様の問題や脅威に直面し、機会を得ていること、そして共働と垣根を越えた学習プロセスを実施することによってのみ、YWCA の運動が強化されることを再認識させてくれました。こうした意味で 2009 年度は、私たちと共通する女性団体や世界中の YWCA との間に今まで以上に国際的なパートナーシップが構築され、組織発展の上でも重要な節目の年となりました。

今後パレスチナ YWCA は、アドボカシーの方針に地域コミュニティと草の根の経験を結びつけ、一層皆様のお役に立てることを望んでいます。また、地域コミュニティの女性のために居場所を提供して、抱えている問題を女性たちが共有できるようにし、生活の改善や問題の解決策を見出す彼女たちの努力の支援をしていきたいと考えています。

ミラ・リゼック、パレスチナ YWCA 総幹事

1. 2009 年のハイライト

1.1 現状の目撃 パレスチナへの旅～正義に満ち揺るがない平和を皆の手で創り上げる～

The Witness Visit to Palestine 2009 年 9 月 24 日～10 月 2 日



パレスチナ YWCA と東エルサレム YMCA は、紛争と占領という状況での地域コミュニティのニーズ、特に地域の女性、若者、子どもたちのニーズへの対応にあたり、世界の YWCA と YMCA 運動との連帯と支援に、その活動当初から価値を見出してきました。

平和と社会正義への努力とたゆみない献身をとおして、パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA は世界運動の一員として、世界のいたるところの無数の若者たち、女性たち、そして子どもたちに希望と力を与えてきました。この世界規模の連帯は、両パレスチナ YWCA、東エルサレム YMCA 運動を強め、貧困、暴力、青少年の犯罪や裁判ならびに更生、失業、コミュニティ構築と若者、女性のエンパワメントといった課題について啓発する、ユニークな専門性を両 YWCA・YMCA にもたらしました。

世界 YWCA および世界 YMCA 同盟それぞれの総会における、中東に関する決議と継続した行動計画の実施に則り、パレスチナ YWCA と東エルサレム YMCA はその協働事業である JAI(Joint Advocacy Initiative) を主体に「現状の目撃 パレスチナへの旅(Witness Visit to Palestine)」という一週間の集中プログラムを企画しました。

この企画では、以下に焦点を当てました。

- パレスチナ人が抱える葛藤の根本原因について(参加者が)知ること
- 各国の地域 YWCA・YMCA において、啓発と意識構築に関するプログラムを実施するための支援環境づくり、および強化をすること
- 世界の YWCA・YMCA(からの参加者)に、パレスチナの YWCA・YMCA のプログラムを訪問する機会を設け、(プログラム)開発、制限や束縛のある状況、そして課題を理解してもらうこと
- 協力関係を構築することを通して、チャンスを作り出すこと

このプログラムへの派遣団は、世界中のYWCA およびYMCA からの38人で構成されました。その中には、世界YWCA 総幹事、職員、運営委員、そして「正義と平和作業部会」のメンバーが含まれ、アメリカYWCA、日本YWCA から意義ある参加がありました。YMCA からは、世界YMCA 同盟副会長、ノース・スタッフオードシャー(英国)、スペイン、そして香港YMCA が参加しました。このほか協力団体のY-グローバル、ホライゾン、フレンズ・オブ・パレスチナ(オークニー、英国)からの参加がありました。

「現状の目撃 パレスチナへの旅」で派遣団は、パレスチナ住民に課せられた移動制限について、自らが軍事検問所を通過したり分離壁沿いを通ることでその事実の「目撃」者となりました。また、派遣団は地元コミュニティの大勢のパレスチナ人住民と出会い、地域YWCA・YMCA や、キリスト教会、市民団体、基調講演者らの説明やプレゼンテーションから、パレスチナの人々が置かれている状況や直面している問題について学びました。さらに、東エルサレム、ラマッラ、ベイト・サフル、エリコ、ヘブロン各市街のフィールドワーク、アクバット・ジャベル、ジャラゾン、アイダの3つの難民キャンプ訪問など、パレスチナYWCA および東エルサレムYMCA の事業やプログラム紹介にも重点が置かれました。

「現状の目撃 パレスチナへの旅」訪問団は、(プログラムの最後に)思いのわかしあいとプログラム評価の時間を持ち、さらに(パレスチナの状況改善のための)勧告書と「被占領地パレスチナの自由と正義に基づく平和」を呼びかけるポジションペーパーを作成しました。

派遣メンバーによるいくつかの感想を紹介します。

「西岸地区のほとんどの(パレスチナ)住民が、分離壁の建設と土地の剥奪によって日々縮小する居住地の上で管理された生活を送っている中、住民の苦境を世界は気づいていないか、国連などが示した解決策を実行するのに必要な努力が足りないという、拡大し続ける課題を私たち派遣団は共有しました。私たちは、これといった解決策がない状況を切りぬけ、存続自体が危ぶまれる中で生きている(パレスチナの)人々に対し、私たちのビジョンが(世界の)目を開けさせ、今とは違った、少しは希望の持てる将来を実現できることを望むことしかできません。(パレスチナの人々が置かれている)このような状況は、さらに大きな不安と反発を生み出すだけです」

コンスタンス・テイト アメリカYWCA 世界奉仕委員会共同代表、ニューヨークYWCA 会員

「『現状の目撃 パレスチナへの旅』を皆で経験したことは、行動を呼びかけるを通して、私たち一人ひとりの中に刻まれます。また、東エルサレム、エリコ、ベツレヘム、ベイト・サフル、そしてヘブロンで出会った女性、男性、子ども、若者たちの悲痛な声を忘れることはありません」

ニャラザイ・ゲンボンズバンダ 世界YWCA 総幹事

「この10日間で、とても美しい多くの瞳の中に、パレスチナの人々を見ることができました。エリコYWCA の食品生産プロジェクトで働く女性、英国のYMCA からの若い参加者たち、ジャラゾン難民キャンプの小さな子どもたち、パレスチナYWCA や世界YWCA の総幹事…。どれだけ多くの努力が(パレスチナの)人々の生活を改善するために日々なされているか、実感することができました。そしてこれらの経験は、正義ある平和のために働き続ける活力を私にも与えてくれました。このプログラムを経験して、私はこれまでの単なるハッピーなGoCy 交換プログラム・インターンではなく、誇りをもったインターンになることができました」

イエルムンド・グランlund GoCy パレスチナ派遣インターン、Y-グローバル(ノルウェー)メンバー

1.2 研究:「軍の占領、トラウマ、排除という暴力」(パレスチナ YWCA 委託、ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士 実施)

2009 年初頭、YWCA は「軍の占領、トラウマ、排除という暴力: 囚われた肉体と精神(“Military Occupation, Trauma and the Violence of Exclusion: Trapped Bodies and Lives”)」と題する新しい研究をナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士に委託しました。この研究はエルサレムにとって重要な時期に完成したので、今日のエルサレムのパレスチナ人の苦悩と抗議に関する重要な文書として役立つでしょう。

この研究はエルサレムのパレスチナ人が占領や生き残るための闘いの下、どのように生活をし、困難を乗り越えようとしているのかということへの理解を深めることを目的にしており、エルサレム一都市部に住むパレスチナ人への暴力の影響を調査しています。エルサレムに住むパレスチナ人は、排除という暴力、恐怖、迫害、政治的残虐行為と絶えることのないトラウマの影響を受けているのです。さらに、イスラエルのガザ地区への攻撃(2008 年 12 月 27 日~2009 年 1 月 18 日)後、場所や空間、国籍、ジェンダーといったアイデンティティがエルサレムに住むパレスチナ人の日常生活に及ぼしている影響について調査しています。

この研究のために実施されたインタビューにて収集された率直な発言によると、エルサレム出身のパレスチナ人の若い男女のは、自分たちの身体や日常生活の行動、活動が厳しい管理下にある、あるいは「囚われている」と強く感じていることを口にしてしています。ナデラ博士の理論分析では、これらの発言を理解するために「グローバル性とポスト植民地状態の理論化を求めています。これは『テロとの闘い』や『安全保障の正当化』の発達、政治不安や産業不安、急増する暴力といったグローバルな影響力や情勢、そして国内避難民や地政学、家屋破壊といった地域レベルでの影響力が、占領下の東エルサレムにおけるパレスチナ人の日常生活の輪郭をどのように形成しているのか、そのことを完全に理解するために必要となります」

2009 年 12 月、YWCA は研究の草稿を受け取りました。2010 年に一連のワークショップを催し、女性団体や政策立案者、研究者と研究成果を分かち合うことを予定しています。そして YWCA のプログラムの優先課題や取り組みを伝えるために、この研究を利用することを目指しています。「いくつかのインタビューで研著のように、パレスチナ人の声を聞くことで、パレスチナのコミュニティや個人がどのように“囚われて”いるかということへの理解を深めることが望まれています。東エルサレムの閉鎖された居住地で生活することは、完全に管理され、制限を受け、排除されるということだけでなく、生き抜き、囚われに抵抗するということでもあります」またこの研究は、東エルサレムのコミュニティの女性や子どもなど、YWCA が従来から対象としてきた人々が(この状況を)生き抜く術と彼女らの生活を支援するプログラムへの介入を計画するために用いられるでしょう。

2010 年中頃、この研究はパレスチナの女性団体と協力して正式に進められます。

2. 育成と開発プログラム

2009年9月、先述のようにパレスチナ YWCA の次期5年の組織計画2010-2015が最終調整され、運営委員会で承認されました。これによりパレスチナ YWCA はすべてのプログラムをテーマ別に以下の主要な4分野にまとめました。

- 女性のための経済開発
- 女性の人権とジェンダー平等の促進
- 若者のリーダーシップ養成と社会参画
- 子どもの教育と認知教育

テーマ別の各分野には明確な組織計画上の目的とプログラムがあり、それは目標を実現するために全体的なビジョンとミッションに一致しています。2009年のYWCAのプログラムは大変多岐にわたり、各プロジェクトベースでおこなわれていました。本報告書においては、すべてのプログラムやプロジェクトを上記のテーマ別の4分野に新しくまとめる努力をしています。

A. 女性のための経済開発

女性のための経済開発の分野にはラマツラとエルサレムでの職業訓練プログラムや他の技術訓練、雇用・生産プロジェクト、女性を対象とするマーケティングやビジネス研修が含まれます。

A.1 職業訓練センター Vocational Training Centers (VTC)



2009年、エルサレムとラマツラの職業訓練センターは迅速評価と市場調査を依頼しました。その目的は、特にジェンダー間の平等の視点から、市場のニーズに対するプログラムの質と対応を評価し、また、市場主導で経済的に女性をエンパワーする新しい専門性／分野を特定することにあります。

ラマツラの市場調査がビルゼイト大学継続教育学部によって実施され、多様な視点から労働市場の調査をおこなった結果、主要な競合や競争パターンが特定されました。そしてYWCAのプログラムが適切性、効果・効率性、財務の安定性の観点から評価されました。そして最終的に累積的な結果が提供され、提案された事業計画の中で実行可能な提案が収集されました。職業訓練に対するステレオタイプは、今なお女性が公的市場でより専門性が高い分野や仕事に進出する大きな障害となっています。そのため、今後YWCAは一層ジェンダーに配慮した専門性を紹介するため、今まで女性に開かれていなかった新しい労働市場へ女性が進出する支援をおこないます。

エルサレムではイタリアの機関であるCOOPI (Cooperazione Internazionale)が「YWCAにおける秘書トレーニングプログラムのための労働市場ニーズ評価」をおこないました。これは、職業訓練の機会を拡大させ、これらのコースへの東エルサレムの若者の入学者増員を目的としています。2010年～2011年にかけて、より多くの

女性に提供できるように、地域コミュニティの専門家や主婦などの関心を引く新しい短期プログラムを計画するとともに、医療事務や事務管理職などの新しい専門課程が提案され、検討されてきました。これにより職業訓練プログラムの財務の安定性も改善するでしょう。

どちらの職業訓練センターもドイツ教会開発サービス(EED)やBread for the World(米国のNGO)、開発団体に関する世界教会連合・ドイツ(APRODEV)からの2団体、ノルウェー教育組合から主な支援を継続的に受けています。インフラ面での発展には、Y グローバルや CHF(最も困難な状況のパレスチナ・コミュニティを支援するNGO)から支援を受けました。

以下は 2009 年における両職業訓練センターの主な達成事項です。

● エルサレム YWCA 職業訓練センター

2009 年度エルサレムの職業訓練センターは、広範囲に及ぶ改修がおこなわれました。職業訓練センターの改修の第1段階では、最新式のパソコン教室や学生食堂、教員用ラウンジ、洗面所を中心に機器の設置や修理をしました。第2段階では教室の改修を重点的にしました。生徒によりよいサービスを提供するため、職業訓練センターのすべての施設が改善され、使い勝手のよいシステムや道具、器具が備えられました。

さらに、職業訓練センターのカリキュラムや専門課程が教員や監督者によって内部評価されました。そして新しい内容やコースが計画され、導入されました。その中には 2008 年~2009 年に YWCA が雇用したジェンダーの専門家によって準備されたジェンダーに関する新しいコースが含まれます。今日ではカリキュラムの一つとして、ジェンダーの授業が職業訓練センターで実施されています。

入学志望者数は卒業生数同様に、前年と比較して減少しています。これには多様な理由がありますが、その中にはイスラエルが(パレスチナ人に対して)課しているエルサレムでの移動制限や、イスラエル当局が発行する健康診断書(の入手の難しさ)などがあります。以下の表は入学者志望者数と卒業生数の関係を示すものです。

学校年度	入学者数	卒業生数	専門課程
2008 - 2009	108 人	92 人	理学療法 10 人 公衆衛生 20 人 医療事務 22 人 事務・秘書 40 人
2009 - 2010	89 人	2010 年 6 月 卒業	公衆衛生 22 人 秘書 67 人 (旅行業、医療)

最終的にエルサレムの委員会は、公衆衛生と理学療法助手の専門課程の廃止を決定しました。保健分野の卒業生の雇用率が満足できるものではなかったからです。卒業生の就業の際、イスラエル保健省が認定する証明書が必要になりますが、(パレスチナの職業訓練校の卒業生が)これを入手することは法的にも政治的にも困難なことなのです。2010年6月に最後の生徒が卒業し、その後この専門課程は完全に廃止されます。

● ラマツラ YWCA 職業訓練センター

ラマツラ YWCA では、2010 年末に職業訓練センターを移転するため、現在、新しい施設を建設中です。これにより YWCA が対象とするプログラム参加者の拡大が可能となると同時に、適切な場所と施設がなかったために従来不可能であった新しい専門課程の創設が可能となります。

入学志望者数と卒業生数の関係

学校年度	入学者数	卒業生数	専門課程
2008 - 2009	40 人	27 人(女性 25 人、男性 2 人)	秘書プログラム
2009 - 2010	50 人	2010 年 6 月 卒業	秘書プログラム

秘書課程の一部として YWCA は教員と生徒の両方に継続的に心理カウンセリングをおこない、日常生活上のストレスや増加する政治的あるいは家庭内の暴力を対処するための支援をしました。それには、ストレス・マネージメントのほか、グループまたは個人的な手法によるカウンセリングがとられています。ラマツラ YWCA は、「心理支援チーム」というラマツラ地域の 20 団体からなるネットワークに参加し、このプログラムを実施するために心の健康分野において活動しています。

2009 年度の間、約 74 人の生徒と 10 人の教員や講師がこのカウンセリングプログラムに参加しました。プログラムでは教員や講師を支援して生徒の心理的なニーズの理解を深めるとともに、さらなる個人的なカウンセリングを必要とする生徒の特定が可能となりました。暴力行為にでたり、奇声を発したり、すぐに手を上げやすかった生徒が今までより落ち着き、非暴力的な方法で問題解決ができるようになるなど、教員や両親は子どもたちの行動の変化に気づきました。この結果報告は、ノルウェーの YWCA/YMCA を通じて受けたフォクス (FOKUS)からの支援で可能になりました。

A.2 生産プロジェクト Production Projects

YWCAには2つの生産プロジェクトがあります。1つはジャラゾン難民キャンプにあり、ここでは工芸品や刺繍の制作をしています。もう1つはエリコ YWCA の食品生産です。過去 2 年間に YWCA は多様なプロジェクトと市場調査をおこない、効果や適切性、効率性を評価し、生産プロジェクトの計画的な方向性を決定しました。いつも浮上する問題はこれらが収入創出プロジェクトなのか、あるいは雇用創出プロジェクトなのかということです。このことは組織計画の過程においても広く議論されました。

「パレスチナ YWCA の再建・組織計画の評価(Assessment of the Restructuring and Strategic Planning Process of the YWCA of Palestine)」と題された最新の研究が YWCA の主な協力団体の 1 つである ICCO(キリスト教関係の開発に関する団体)によってなされ、2009 年 9 月の報告書において勧告をしました。

報告書では、YWCA がこれらのプロジェクトを収入創出の目的で運営すると決定する場合、ビジネスの事業体として管理運営すべきであることが述べられています。これらのプロジェクトが持続可能で競争力のある経済機会を提供し、女性の経済発展への参加を推進することを意図しているのであれば、プロジェクト規模を拡大して、最適化させ、生産力を向上させなければならず、これらのプロジェクトの制度的取り決めを再定義する必要

があります。また NGO としての YWCA が利潤追求団体として生産プロジェクトの運営を維持することは不可能であり、YWCA はそのためのビジネススキルを持ち合わせていないことが忠告されています。しかし、YWCA は助言を民間セクターに求めることは可能であるということです。

パレスチナ YWCA 事務局はこれに基づき、資産管理政策書を作成し、収入創出プロジェクトの状態を改善するための技術支援をしていきます。これは、これらのビジネスプロジェクトに関する最終的な制度創設が合意されるまで継続されます。

● ジャラゾン難民キャンプ¹生産センター



ヨルダン川西岸やガザの大部分のパレスチナ難民キャンプのように、ジャラゾン難民キャンプは人々があふれかえり、基礎インフラの欠如や乏しい基本的サービス、失業、深刻な貧困に人々は苦しめられています。

ジャラゾン難民キャンプセンターの2階は、コミュニティの女性のための手工芸や刺繍の制作の場として提供しています。ここでは、弱い立場でありながら世帯主にならざるを得ない状況にある女性を主な対象に、彼女らに継続的に機会を提供し、

家族を養うことができるよう支援し、収入を創出し、労働市場において就業できるよう新しい技術を教えています。

2009年、ジャラゾン難民キャンプセンターは、10人から15人の女性を継続的に雇用し、パートタイムで手工芸や刺繍の制作をおこない、これらの女性にデザインや製品の生産、マーケティングの研修をおこないました。これらの作品にはキルトやテーブルかけ、ハンドバッグ、財布、キーホルダー、しおり、人形や指人形があります。YWCAは継続的に女性たちの作品を地域や国際的な展示会やバザー、YWCAのギフトショップで販売し、世界中にあるYWCAや教会を通じてこれらの作品の販売促進をしています。

● クリスマスバザー



2009年12月、2つのバザーが開催されました。1つはラマツラ市のカトリック学校でおこなわれ、他方はガリラヤのパレスチナ系住民の村、マリアでおこなわれました。2つのバザーは、オックスファム・ケベック(イギリスの国際NGO)のプロジェクトの一環として、現在の刺繍や手工芸の作品の品質を向上させ、新しいデザインを紹介し、販路を拡大することを目的としていました。このプロジェクトを通して、900作品の刺繍や手工芸品が制作され、22点の新しいデザインが紹介されました。またこの目的のために20人の女性が雇用されました。これは、女性による仕事の需要と供給の必要性、そして女性の関与と熱意が明確に示された驚くべき成果でした。

¹ パレスチナ自治区内にあり、国境を超えたいわゆる難民キャンプとは異なる。

作品に関心をもつ女性を中心とした約 250 人の来客がラマツラのバザーを訪れました。ラマツラのバザーでは 133 点が、マーリアのバザーでは約 70 点が売れました。

● ダラル・アナティさん²を祝う:YWCA 歴 25 周年記念



「YWCA に関わるようになってどのぐらいになりますか？」と尋ねられた時、ダラルは即座に答えました。「1985 年の 5 月 1 日からです」当時ダラルは 20 歳の学生で、伝統的な刺繍の制作技術を学ぶためジャラゾン難民キャンプにある YWCA センターに入学しました。

「私はとても内気な少女でほとんど自分の意見を述べる事ができませんでした」ダラルは当時を思い出しながら続けました。「ですが、この分野で他の女性と活動することで個性をのばし、自信をつけることができました」

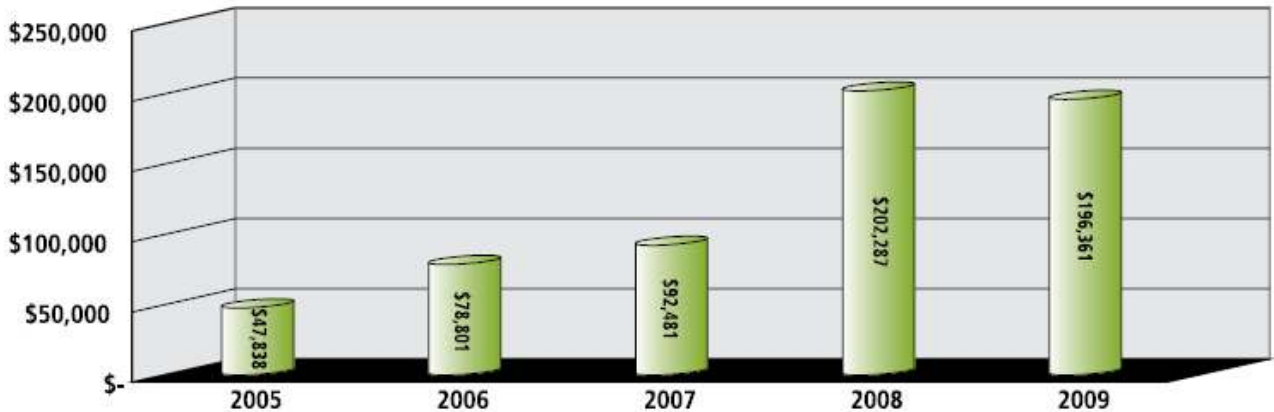
現在ダラルは 45 歳になり、彼女が成長したパレスチナの難民キャンプ、ジャラゾンの YWCA センターで講師をしています。「私は自分の生徒に刺繍の技術を教えるだけでなく、湧き上がる自分のアイデア、そして私たちがつくる新しい芸術作品を装飾することを大切にしています。私はこの次へ次へとつながって行く感じが好きなんです」こう、ダラルは述べています。「この数年で私たちの国は多様な社会・政治的变化を経験しました。しかし、YWCA センターで他の女性たちと一ところに集まることは、自分たちに特別な場所が与えられ、そこでは私たちは安全であり、役に立つことができると実感しています。私たちは、本当に好きなことから収入を創出するだけでなく、共にいることを楽しみ、個人的な課題を通してお互いに助け合っています」

● エリコの生産組合

エリコの食糧生産プロジェクトは 2001 年に開始されました。これは中心的なプログラムとして認識され、家庭の収入が危機的な女性の雇用機会を提供しています。団体の主要なプログラムの 1 つであり、過去 6 年間にわたり、スイス YMCA/YWWCA のホライゾン国際協力から継続的な支援を受け運営されています。

このプロジェクトの目的は、低収入のエリコ地域のパレスチナ女性に雇用機会を与え、国産品を促進し、イスラエル産の製品への依存を減らすことです。プロジェクトでは自分たちの農作物を使用した家庭料理などで優れた評価を得ていますが、雇用者数の面では拡大できていません。プロジェクトの売り上げは拡大していますが、第三者・機関からの寄付による支援を引き続き受けています。2009 年に働いている女性は 11 人、男性は 2 人で、食品加工、保存、マーケティングの継続的な研修を受けています。製品にはパン菓子、ジュース、加工食品ならびに袋詰めドライ・ハーブがあります。

² 表題のみ敬称をつけ、本文ではすべての個人の敬称を略しています。



● サハル・アル・ゴージュさん: エリコ生産センターのフレンドリーな職員



「YWCA は私にとって 2 つ目の家庭です」と、サハル・アル・ゴージュは言います。彼女はエリコ YWCA の生産センターで出会えるとてもフレンドリーで、温かい女性の 1 人です。サハルは 2 人の娘とアクバット・ジャベル難民キャンプで暮らしており、毎日エリコの食品生産センターへ通い、パン菓子やジャム、新鮮なレモンジュースや実りの多い土地で採れた多様な新鮮な食品の加工をおこないながら、同僚と共に自分たちの経験や心配、

ユーモアを分かち合っています。

「YWCA は食品の生産や加工方法、顧客の対応方法の知識を増やしてくれただけでなく、日常生活に影響のある社会的・政治的問題の意識を高めてくれました」サハルは生活に多くの課題を抱えていることを認めながらも、楽天的であるようにし、落ち着いた物腰と美しい笑顔に表れる素直な性格をしています。

● エリコ生産センターのお客様のコメント

ジャネット・ジョンストン: ニュージーランド出身の男性と結婚し、2 人の子どもをもつエルサレムのパレスチナ人女性のコメント

「YWCA は世界に広くその名を知られています。私たちの YWCA はエリコの小さな家庭となっています。私の子どもたちは毎週末 (YWCA に行くとき)、自分の家族を訪ねているように感じています。子どもにとってとても嬉しいことは、YWCA 職員の方によって子どものために焼かれた特別なお菓子を家にもって帰ることができることです。ここで働く献身的な人々は、温かい笑顔で私たちを出迎えてくれます。初めて台所に足を踏み入れると、家庭料理の素晴らしい香りがあなたを迎えてくれます。一度味見したら、それ以上においしいものを作ることができず、何度も戻ってきてしまうでしょう。すべての職員の方々にとても感謝しています」

B. 女性の人権とジェンダー平等の促進



YWCA の抱負は、YWCA のプログラムや対象地域のより多くの女性たちに、女性の人権を認知させ、これらの権利をつかみ取るためのロビー活動や(人権についての認知や理解を)広める方法や技術を身につけてもらうことです。そのために、YWCA は人権分野の組織力をより強化する必要があります。また、女性の人権の概念の理解や、すべての国連団体や女性の人権に関連した国際解決についても同様です。

全国評議会は、委員や職員向けに 2009 年 8 月 28 日から 9 月 3 日にかけて「ジェンダー分析とメインストリーミング(ジェンダー平等の考え方を政策に取り入れ、分析すること)」と「国際的な女性の人権」というワークショップを開催しました。

パレスチナのジェンダー問題の専門家であるスヘイル・アズウニがおこなった研修へ総勢男女 39 人の委員と職員が参加し、良い学びを得ました。この研修は、移動規制によりエルサレムに行くことができない YWCA 職員や委員が参加できるようにヨルダン川近郊のラマツラでおこなわれました。研修内容では、ジェンダー問題の基本概念や女性の国際人権について学び、高度な技術によるジェンダー分析、さらに統計や基本ツールを用いてのジェンダー分析、そして性差による意識相違の認識や男女問題プログラミングをおこないました。

ノルウェーの Y-Global と世界 YWCA の支援により、2009 年にパレスチナ YWCA はスリランカとスーダンの YWCA との間で、新しい国際交流事業「紛争地域の女性たちにとって安全な場所を創りだす」を策定しました。パレスチナ、スリランカ、スーダン YWCA の総幹事が 2009 年 5 月、この事業の策定のためにノルウェーのオスロで会合をしました。8 月にはこの事業を FOKUS に提案し、2010 年から助成されることとなりました。この事業は、女性の人権や女性に対する暴力に関する共通の課題を共有すること、そして、権利を獲得するために奮闘する女性たちが成功するための戦略の構築を促します。3 カ国 YWCA の総幹事たちはまた、2010 年 3 月にアメリカのニューヨークで開催される国連女性の地位委員会および第 56 回グローバルサミットに向けて準備をしています。

ダン・チャーチ・エイドの協力を受け、パレスチナ YWCA および地域 YWCA の 1 つであるエルサレム YWCA により実施された「ジェンダーメインストリーミングと認知プログラム」との関連で特に大きな成果となったのは、ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士による研究「占領、トラウマ、排除という暴力：囚われた肉体と精神」を遂行するための準備(そのもの)でした。

健康に関する色々な啓発プログラムを 60 人余りの女性たちに年間を通しておこないました。参加者たちは、ヨルダンバレーの都市部とラマツラ行政地区に住み、周縁化され、基礎的なサービスへのアクセスができない状況にある女性たちです。プログラムのピックには、HIV および AIDS、更年期障がい、栄養、乳がんの自己診断、豚インフルエンザ、性と生殖に関する権利などが含まれました。

C. 若者のリーダーシップ養成と社会参画

このプログラムは、青少年の意識向上や、青少年が自由で民主的なパレスチナ市民社会を構築するための才能やリーダーシップ、個性を発揮できるようにするのが狙いです。

1. 2009 年 8 月、14 歳から 18 歳の 12 人の青少年グループ(男女各 6 人ずつ)がエルサレムでおこなわれた 2 つのワークショップに参加しました。エルサレム YWCA のジェンダーに関する専門家でトレーナーのサマ・アウェイダが、ジェンダー平等の基本概念について説きました。
2. 参加者はまた、サマ・アウェイダによるジェンダーに関する研修と一緒に参加した若手パレスチナ人アーティストのアヘド・イズイマンをトレーナーに迎えた、4 日間にわたる絵画研修にも参加しました。この研修の狙いは、参加者が絵画の技術を身につけ、女性の人権やジェンダー平等についての自らの考え方や見方を絵画で表現できるようになることでした。参加者は各自で、または二人組になって、ジェンダー平等のメッセージをのせた力のみなぎった 9 作品を描きました。YWCA 制作の 2010 年のカレンダーに、9 作品すべてが掲載されています。
3. 2009 年 7 月と 8 月に、エルサレム YWCA の Dabkeh(アラビアンダンス)メンバー 30 人がキャンプ研修に参加しました。ここでは、ダンスの習得と上達、そのほか演技での自己表現に目標を置きました。
4. 2009 年 9 月、レバノンのベイルートでおこなわれた青少年教育週間に、3 人の若手職員が参加しました。ラマツラ YWCA のプログラムコーディネーター、ファテン・フッサー、エルサレム YWCA の会員コーディネーター、リーム・ジャスハン、全国事務所(=パレスチナ YWCA)の管理運営担当アシスタントのマヤダ・タラジです。これは、レバノン YWCA が青少年交流プログラムのフォローアップとして企画し、スウェーデン YWCA の継続的な支援によって開催されたもので、ベラルーシ、レバノン、パレスチナ YWCA が参加しました。この研修では、宗教における女性たちの役割、女性と異宗教間対話、リーダーシップ、組織計画上のチームワークなどのテーマを取り上げ、女性の人権とジェンダー平等に関する課題への参加者の意識向上を目指しました。
5. エリコ市街に住む 9 歳から 15 歳のおよそ 25 人の青少年を対象に、2009 年 7 月中サマーキャンプを実施しました。キャンプでは、水泳、Dabkeh(アラビアンダンス)、美術(創作活動)、このほか青少年の喫煙やボランティア活動についてのセッションを持ちました。
6. ラマツラ YWCA の施設内では、およそ 25 人の青少年を対象に、2009 年 6 月にサマーキャンプを実施しました。

D. 子どもの教育と認知教育

主に3歳から5歳の子どもたちを対象に、子ども教育をはじめ文化やスポーツ活動が、ジャラゾンとアクバット・ジャベル難民キャンプの2つの幼稚園および新規開設されたエルサレムYWCA子どもセンターで提供されています。

ジャラゾンとアクバット・ジャベル難民キャンプの幼稚園は、(子どもたちの)主体的な関わりを促す創造的な教育方法を採用し、子どもたちが遊んで学べる場所として、「創造コーナー」を幼稚園の教室に設けています。そこにはパズルやブロック、カード、本などがあり、それらで遊んだり組み合わせることを通して、子どもたちの論理的思考や能力が引き出されています。また、これらの創造的な手法は、子どもたちの分析力や論理的思考に役立つだけでなく、平等に学ぶ機会や物事を発見する喜びも生みだしています。この結果、私たちの幼稚園を卒業した子どもたちは、学校で高い功績をあげ、人格的にも素行もよいという傾向があります。

子どもプログラム 2009年の達成

● アクバット・ジャベル難民キャンプ幼稚園

1. 学校年度の2008年から2009年はアクバット・ジャベル難民キャンプの幼稚園に総勢85人が入園しました。
2. 2. 3月19日の開校日は母の日³にちなんで、70人の子どもたちが母親たちとセンターで楽しく過ごしました。子どもたちのアート作品の展示、歌やダンスの披露、そしてスポーツなどをしました。
3. 環境意識啓発プログラムを2009年8月1日から3日間、アクバット・ジャベル難民キャンプ内のYMCAボランティアセンターとの協働で開催しました。「水の消費を最小限にしましょう」というテーマで、84人の子どもたちが参加しました。
4. 4. 2009年4月4日、「あなたの国を知りましょう」というテーマで、ラマツラ市街へのレクリエーション旅行を実施しました。対象は、子どもたちとその母親で、総勢50人の子どもたちと25人の母親が参加しました。
5. 5. 2009年2月18日、エリコにある13の幼稚園から100人の子どもたちが参加する、毎年恒例の運動会を開催しました。アクバット・ジャベル難民キャンプ幼稚園の子どもたちは他の幼稚園の子どもたちと個人種目やグループ種目に参加し、運動会は大盛況でした。
6. 6. 5月19日は85人の子どもたちの卒園式でした。式には園児の親たちのほか、カメル・フメイド知事、エリコ出身のパレスチナ解放機構(PLO)エレカット交渉局長、教育局長、労働局長らが出席しました。何よりこの日を特別にしたのは、パレスチナYWCAドリス・サラ前総幹事のほか、エルサレムやエリコYWCAのメンバーたちの参加があったことでした。

³母の日は世界各地でさまざまな日程で祝われている

● 幼稚園に通うイブラヒム・サミル・ニメルくん：幼児期に自信を養う



イブラヒムは アカバット・ジャベル難民キャンプの幼稚園に通っています。母親が初めてイブラヒムを入園させた時、彼はクラスに溶け込めず、クラスメートを避けてばかりいたため、母親にとっては試練の時でした。彼は(他の子どもたちと)ふれあうことをとても恐れ、口ごもり泣きじゃくり、毎日クラスに行くことを恐がっていました。幼稚園のチームはじっくりと、しかし確実に、彼の引っ込み思案を変えるいくつかの方法を考え出しました。幼稚園は母親と力を合わせ、彼を褒め、勇気付けることで彼は次第に自信を持ち、恐怖から口ごもることもなくなりました。

幼稚園のチームとイブラヒムの母親の協力は素晴らしいものでした。幼稚園に通って約 2 年が過ぎたころ、母親は息子がとても成長したと言いました。今ではイブラヒムは引っ込み思案な子どもではなく、活発で社交的でとても友好的です。

● ジャラゾン難民キャンプ幼稚園

1. 学校年度の 2008 年から 2009 年はジャラゾンの幼稚園に総勢 104 人が入園しました。
2. この年、創造コーナーを幼稚園の教室につくり、パズルやブロック、本などの特別な教育ツールで子どもたちの創造力を伸ばすのに役立てています。
3. 2009 年 6 月、園児 104 人とその母親たちを対象に、ツルカレムと カルキリアへのレクリエーション旅行を開催しました。



● エルサレム YWCA 子どもセンター

1. 2009 年度内で、エルサレム YWCA の子どもセンターの開設と改装作業が完了しました。このセンターの設立に際し、NGO 開発センター(NDC)を通じてフランス開発庁(AFD)より多大な資金援助をいただきました。
2. 4 月 3 日にセンターは、パレスチナの子どもデーを祝いイベントをおこない、3 歳から 12 歳の 50 人の子どもたちが参加しました。ピエロのショーや顔に絵を描くフェイスペインティング、YWCA ユース・ダンスグループによるモダンダンスの発表やゲーム、コンテストなどをしました。
3. 2009 年 10 月 10 日より 6 歳から 12 歳の子ども向けの絵画クラスが始まりました。クラスはパレスチナのプロアーティスト、アヘド・ジマンが指導しています。絵画クラスは継続しており、2009 年 12 月末時点で参加者は 12 人になりました。

- 2009年7月、エルサレムの6歳から12歳の男女42人の子どもを対象に子どもサマーキャンプが開かれました。キャンプでは、絵画レッスン、Dabkeh(アラビアンダンス)やヒップホップ、モダンダンス、スポーツ大会、パズル、子ども映画の上映、ドラマや陶芸など、さまざまな楽しい活動を実施しました。
- 12月23日にはエルサレムの120人の子どもたちのためにクリスマス会を開きました。クリスマス会では、サンタクロースが現れプレゼントを振舞ったり、クリスマスキャロルを歌い、これにあわせたDabkeh(アラビアンダンス)の披露がありました。

● ラシャ・コプティさんと自慢の息子ラミくん:YWCAという「一息つける場所」について語る

ラミ・コプティはエルサレムYWCA子どもセンターの6歳の生徒です。彼はこの歳にして特異な絵画の才能でよく知ら、友だちの間ではスターです。

ラミは絵画鑑賞や、ほかの子が彼に描いてあげる絵をよく観察すること、そして彼自身絵を描くことをいつも楽しんでます。彼は自分の中のこの新しい才能に没頭し、思いつくままに描き続け、手が止まることはめったにありません。

若いラミの母親ラシャ・コプティは、東エルサレム⁴で子育てをする難しさを強調しています。「文化やスポーツ活動といった多くのチャンスは、ヨルダン側西岸地区の内域またはイスラエルの街々にあるんです」さらに、「東エルサレムに住む親たちが子どもたちをスポーツや芸術的活動に参加させたいなら、さらなる努力と労力が必要なんです」と述べています。

ラシャは、エルサレムYWCAは少なくとも、引き続き困難に日々直面している東エルサレム市民の「一息つける場所」になっていると述べています。

「子どもセンターの先生たちは、それぞれ独自の教育法を持ち、それは多様です」ラシャはこうコメントし、「この教育法は子どもたちが絵画の基礎を学ぶことができる一方で、独自の創造力を身につけるのに適しています」と語っています。



⁴ 東エルサレムはイスラエルと境界線を接する位置にある。

E. アドボカシーと広報

E.1 JAI(パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA の協働グループ):次の段階へ



東エルサレム YMCA とパレスチナの YWCA が JAI を発足し、平和と正義を被占領地パレスチナ⁵で訴えるようになっておよそ 10 年になります。パレスチナはこれまで全体的に著しい変化を遂げ、世界状況は(パレスチナの)生活の隅々にまで影響を及ぼしています。

JAI の役割を慎重に見極める必要と、JAI が掲げるゴールと目的を最大限達成できるオルタナティブな方法を探求することが急務です。このことを受けて、JAI は戦略と計画立てに着手することを決めました。

戦略と計画立ての準備として、JAI の主要な協力団体であるクリスチャン・エイドからウィリアム・ベルが JAI を訪れ、新しいアドボカシーの戦略を立てる支援の一環で、アドボカシーについての 2 日間のワークショップと協議をおこないました。

IDaRA (組織開発と改革協会)は、YWCA と YMCA の 2 人の総幹事によって作成された委託事項に従って、その任務と戦略計画立ての仕事を請け負うことを契約しました。IDaRA はワルド V. ナモウルとサロ H. ナカシアンの 2 人の高官を担当に任命しました。

YWCA・YMCA から 17 人のメンバーが、3 月にエリコで開催した 3 日間のワークショップに集いました。JAI への主要な寄付団体の 1 つであるホライゾンのアンジェラ・エルミガー代表も参加しました。他の協力団体・個人に対しても、(戦略計画立ての)過程でインタビューを実施しました。

(戦略計画立て)を経て、以下のことが決定されました。

1. JAI は、改善したアドボカシー戦略に則り、(JAI が掲げる)アドボカシーに一層力を入れて今後も活動を続ける。アドボカシーについては、そのテーマおよびメッセージ、対象、戦略への合意形成が必要。また、新しいキャンペーンの企画についても合意し、JAI チームはコンサルタント(相談役)とログ・フレーム⁶や次の段階の活動の計画をする。

⁵ パレスチナ自治区のことだが、イスラエルの占領を受けている状況を明確にするために、Occupied Palestinian Territories (被占領地パレスチナ)という言い方をしている。

⁶ 開発プロジェクトのステークホルダーによるいわゆる「参加型」で課題・目的分析→プロジェクトデザイン・アクションプラン策定→評価指標検討→反映→上位目標へ移行という一連の流れを管理するもの。
http://blog.livedoor.jp/cannon_ball/archives/50362774.html

2. 事業立ち上げの効率化と強化。2009年10月より、プロジェクトマネージャーに ナイダル・アブ・ズルフを任命。管理チームは、(それぞれYWCAとYMCAの)2人の総幹事とプロジェクトマネージャーで構成され、事業のモニタリングと問題解決をおこなう。
3. 事業運営委員会は、JAIの政策策定を担当する。
4. 2010-2012年度企画の提案書を作成し、寄付団体(個人)および協力団体(個人)へ2009年10月中に送付。(レベル3の企画として)

E.2 パレスチナのクリスチャンによる「カイロス文書」(Kairos document)

2009年12月11日、パレスチナのクリスチャンたちは、「A Moment of Truth」(真実の瞬間)と題したカイロス文書を発表しました。これは、世界中の教会の代表者たちが集った国際的な大きな集大成となりました。文書の発表は、地元、地域、そして国際メディアによって報道され、文書はエルサレムの教会各派の代表者たちにより公式に署名されました。

この文書は、6ヶ国の言語に翻訳され、アラビア語も加わりました。(詳細は www.kairospalestine を参照) さらに作業は進み、ノルウェー語やロシア語、日本語や他の言語にも翻訳される予定です。

パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAによる協働事業、JAI(Joint Advocacy Initiative)もまた、カイロス文書に署名しました。そして、地元の他のNGOや国際団体、および個人もこの文書に署名し、できるだけ多くのパレスチナのクリスチャンの声を世界に届け、(カイロス文書が)世界で重要な役割を果たすのに十分な支援を求めています。

カイロス文書は、「平和と正義の展望」を実現するため、そして聖地において人間の尊厳の復活を実現するため、JAIやパレスチナのクリスチャンたちに幅広く活用される貴重なアドボカシー(提言)方法の一つになるでしょう。

● 真理の瞬間

この文書は、パレスチナで起きていることについて世界へ訴える、パレスチナのクリスチャンたちの声です。この文書が作成されたのは、この地(聖地)に神の栄光があること、ここで虐げられている人々の上に神のみ恵みがふりそそぐことを求めた、まさにそうした時期でした。この文書はこうした精神に立って、迫害、排除や追放、苦しみ、そして明らかな人種差別に60年以上も脅かされているパレスチナの人々に寄り沿うことを国際社会に求めています。国際社会がイスラエルの占拠を静観している間も、パレスチナの人々は虐げられ続けています。私たち(パレスチナのクリスチャンたち)の声は、祈念の嘆き、愛、神の祈りと信仰です。私たちはまず私たち自身に、そして世界のすべての教会やクリスチャンたちに不正義と人種差別に立ち向かうことを求め、この地域の正義と平和のために取り組むことを呼びかけ、パレスチナの人々に対する侵害や土地収奪を犯罪行為として正す神学に、いまいちど立ち返ることを呼びかけます。

私たちパレスチナのクリスチャンは(カイロス文書という)この歴史的な文書の中で、(イスラエルによる)私たちの土地の軍事占拠は神と人道に対する罪であり、占拠を正当化するいかなる神学も、虐げられた者との連帯と愛、そして人々に正義と平等を解くキリストの教えから程遠いものであると宣言しています。

この文書は思いつきや偶然で作成されたものではありません。また、理論的な神学の研究あるいは政策文書でもありません。むしろ、信念と献身によって作成されました。この文書の価値は、(パレスチナの)人々を思う気持ちを赤裸々に表したことで、私たちが生きている歴史の一コマであるこの瞬間を見つめる視点から生まれていると言えます。

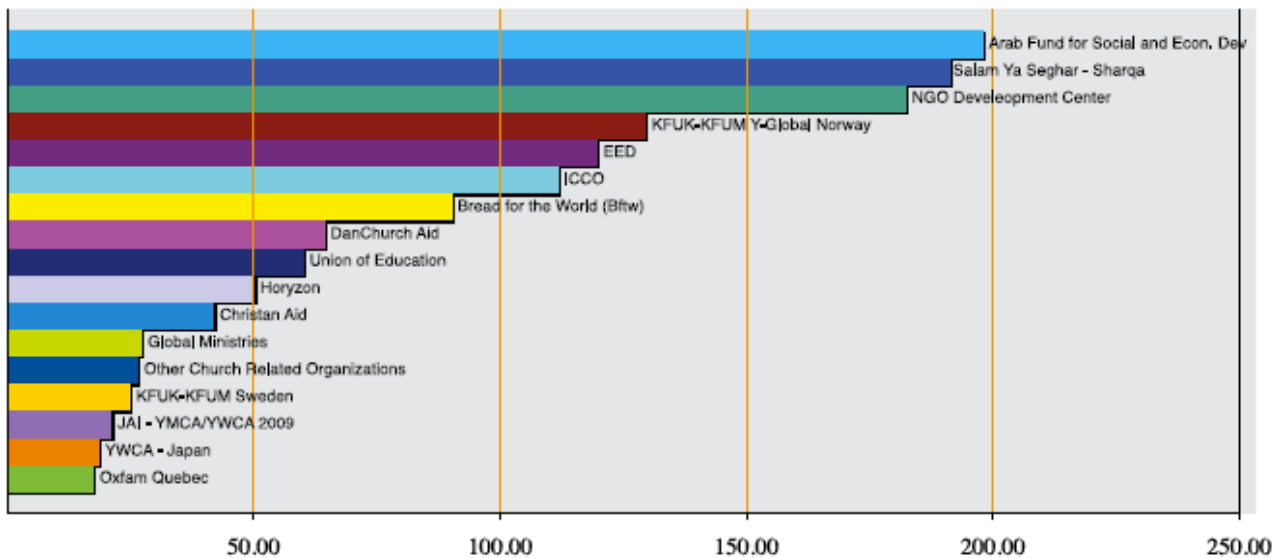
あいまいさをなくし明確な文書とすべく、(聖書の)予言者のような表現法を用いるようにしました。また問題の解決策として、イスラエルによるパレスチナの占拠とすべての差別の終焉を提唱し、それは正義と永遠の平和をもたらすことを述べています。さらに文書は、(世界の)すべての人々、政治主導者や決議機関の人々に対し、イスラエルがパレスチナに対する抑圧と国際法の軽視をやめるよう、イスラエルに対し圧力をかけ法的措置をとるよう求めています。そしてこの文書は、この不正に非暴力の手段で立ち向かうことは、クリスチャンを含むすべてのパレスチナ人の人権であり責任であると明確に支持しています。

カイロス文書作成の中心を担ったメンバーは、1年以上に及び作業をしました。神への信仰と(虐げられた)人々への愛に導かれ、祈り、話し合い、パレスチナ人やアラブ人、そして国際社会のさまざまな人々からのアドバイスにより、作業を進めることができました。私たちは、こうした(世界中の)友人たちの連帯に深く感謝いたします。

The logo for YACA (Young Arab Christian Alliance) is displayed in a light green, semi-transparent font against a solid green background. The letters are stylized and slightly shadowed.

4. 2009 年会計報告

2009 年に受け取った寄付者からの援助



(単位:1 千円)

(上から)

アラブ経済・社会開発ファンド

Salam Ya Seghar-Sharga

NGO 開発センター

KFUK-KFUM Y-グローバル (ノルウェー)

ドイツ教会開発サービス(EED)

ICCO(開発のためのキリスト教会の相互団体)

ブレッド・フォー・ザ・ワールド(世界のためのパン)

ダン・チャーチ・エイド

教育組合

ホライゾン

クリスチャン・エイド

グローバル・ミニストリーズ

その他、キリスト教会の関連団体

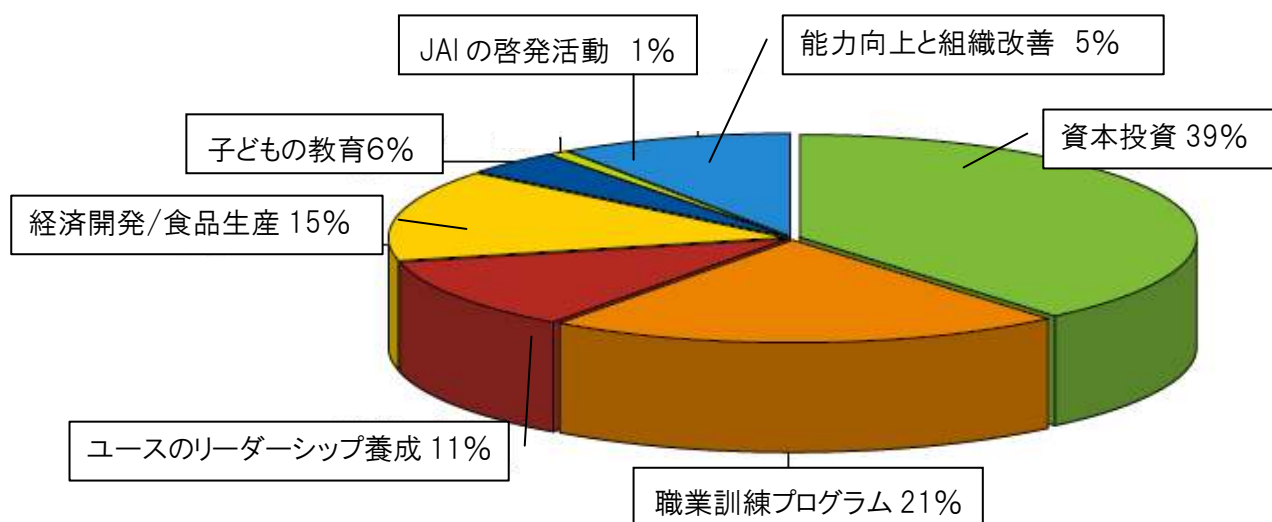
KFUK-KFUM スウェーデン

JAI YMCA/YWCA 2009

日本 YWCA

オックスファム ケベック

パレスチナ YWCA 2009 年の部門ごとの支出



4. 2009 年の協力団体・寄付団体

アラブ経済・社会開発ファンド	ブレッド・フォー・ザ・ワールド(世界のためのパン)
クリスチャン・エイド	スコットランド国教会
ダン・チャーチ・エイド	ドイツ教会開発サービス(EED)
グローバル・ミニストリーズ	ホライゾン/スイス・インターナショナル・コーポレーション
ICCO(開発のためのキリスト教会の相互団体)	NGO 開発センター(NDC)
フランス開発庁(AFD)	オックスファム ケベック
Salam Ya Zeghar, Al Shareqa	ノルウェー・教育組合
キリスト教団	ユナイテッド・メソジスト教会
Y グローバル(ノルウェー)女性と開発のためのフォーラム(FOKUS)	グローバル・ミニストリーズ委員会
スウェーデン YWCA および YMCA	Y グローバル(NORAD)
	日本 YWCA

5. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長・総幹事

- パレスチナ YWCA
 - 会長 アブラ・ナシール 総幹事 ミラ・リゼック
- エルサレム YWCA
 - 会長 ミレイユ・グネイム
- ラマツラ YWCA
 - 会長 マハ・シハデハ・ランティッシ
- エリコ YWCA
 - 会長 エルマ・ダルビッシュ

YWCA of Palestine Annual Report 2009



Young Women's Christian Association (YWCA)

Sheikh Jarrah, Ibn Jubeir Street, P.O.Box 20044, East Jerusalem

Phone: (02) 6282593

Fax: (02) 6282082

Email: council@ywca-palestine.org

www.ywca-palestine.org



パレスチナ YWCA 活動報告 2009 日本語版

翻訳協力 植田加奈・春井多美恵

2010年11月発行

発行 日本 YWCA

編集 日本 YWCA(国際部門)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122

E-mail: office-japan@ywca.or.jp